

事例研究報告

**特別支援学校中学部の生徒に
提示された金額を見て、所持しているお金から
提示金額に近い直近上位額を
支払うことを教える**

生徒の実態

- 中学部生徒 知的障がい
- 授業中は集中して課題に取り組む。
- プリント学習では、両替や支払いに関する問題の正答率が高い。
- 買い物学習では、セルフレジに出てくる「残り〇〇円」の表示を見て、一枚ずつ硬貨を入れて金額を確認しながら支払っていた。
- 買い物に見立てた買い物ゲームでは、すぐに支払わないといけないことを意識して、百数円の金額でも500円硬貨、千円札をだすことがあった。

保護者の願い



硬貨を使って買い物を
してほしい！

教員の願い

「硬貨を並べずに、財布からスムーズに金額を出して
ほしい」

「お釣りが少なくなるように支払いをしてほしい」

指導目標

財布の中の硬貨を見て、
直近上位の額を支払うことができる。

ベースライン(記録の方法)

お金の指導 記録表

☆財布の中身:100円硬貨>

	/				/			
	音声 +視覚支援		音声のみ		音声 +視覚支援		音声のみ	
	(金額)	(評価)	(金額)	(評価)	(金額)	(評価)	(金額)	(評価)
1~99円	円		円		円		円	
	円		円		円		円	
101~199円	円		円		円		円	
	円		円		円		円	
201~299円	円		円		円		円	
	円		円		円		円	
301~399円	円		円		円		円	
	円		円		円		円	
401~499円	円		円		円		円	
	円		円		円		円	
	(備考)				(備考)			

【提示方法】

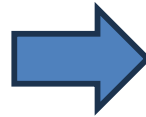
- ・音声+視覚支援
- ・音声のみ

【指導内容】

- ・①音声+視覚支援、②音声のみの順で10問ずつ、計20問実施。
- ・ランダムで提示する。
- ・提示金額を100円ごとに整理して、記録。

※評価基準： ○→独力で間違えずにて

ベースライン(記録の方法)



硬貨を取り出したり、手持ちの金額を把握したりしやすくするため、財布の形状を変更した。

① 100円単位の直近上位の額を出すことができる。(提示金額500円まで)

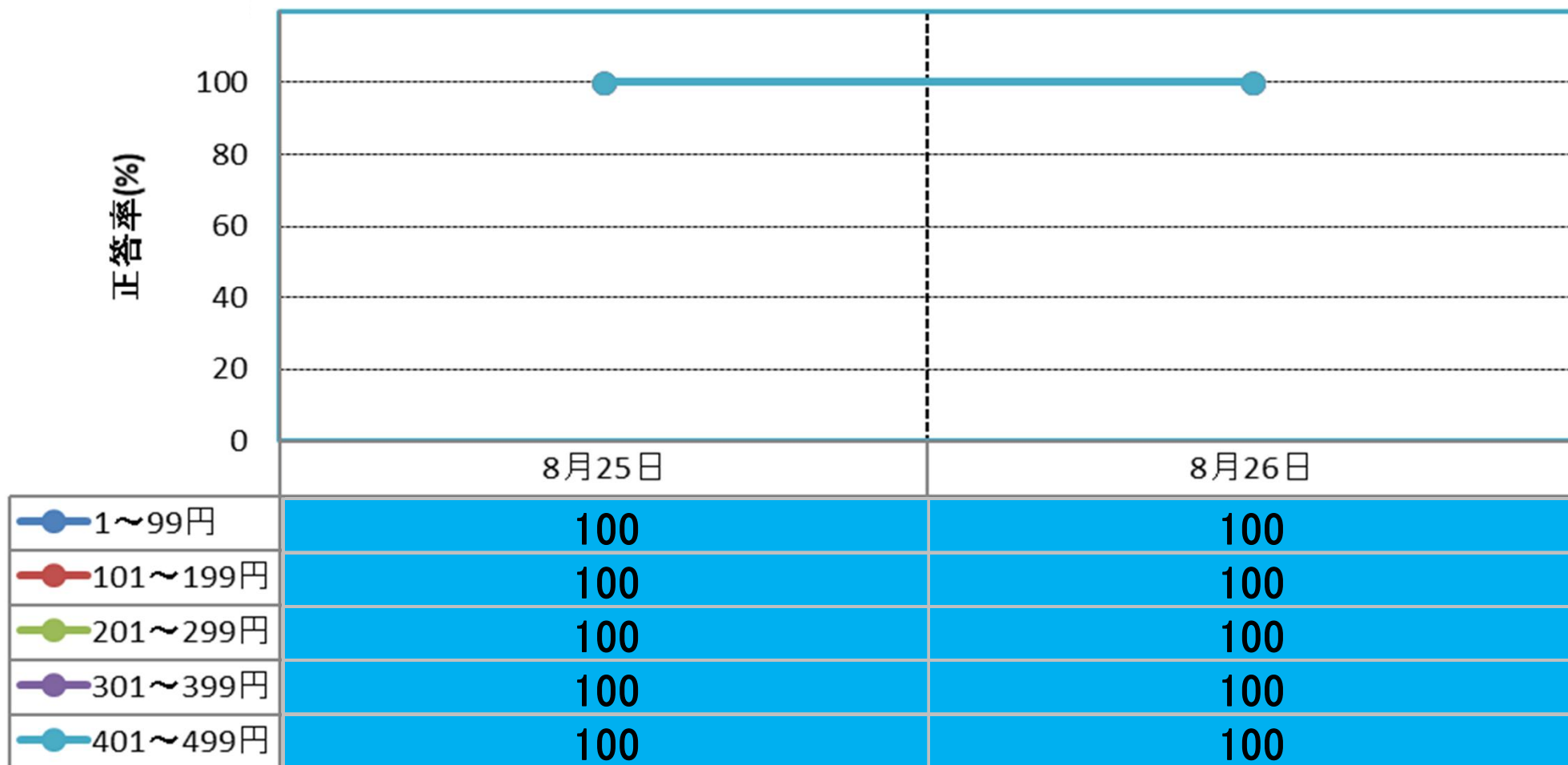
提示金額		支払った金額	評価
12円	➡	100円	○
203円	➡	300円	○
478円	➡	500円	○

財布の中身



①ベースライン

金額帯ごとの正答率の推移 (100円×5枚)



② 100円単位の直近上位の額を出すことができる。(提示金額501円～1000円まで)

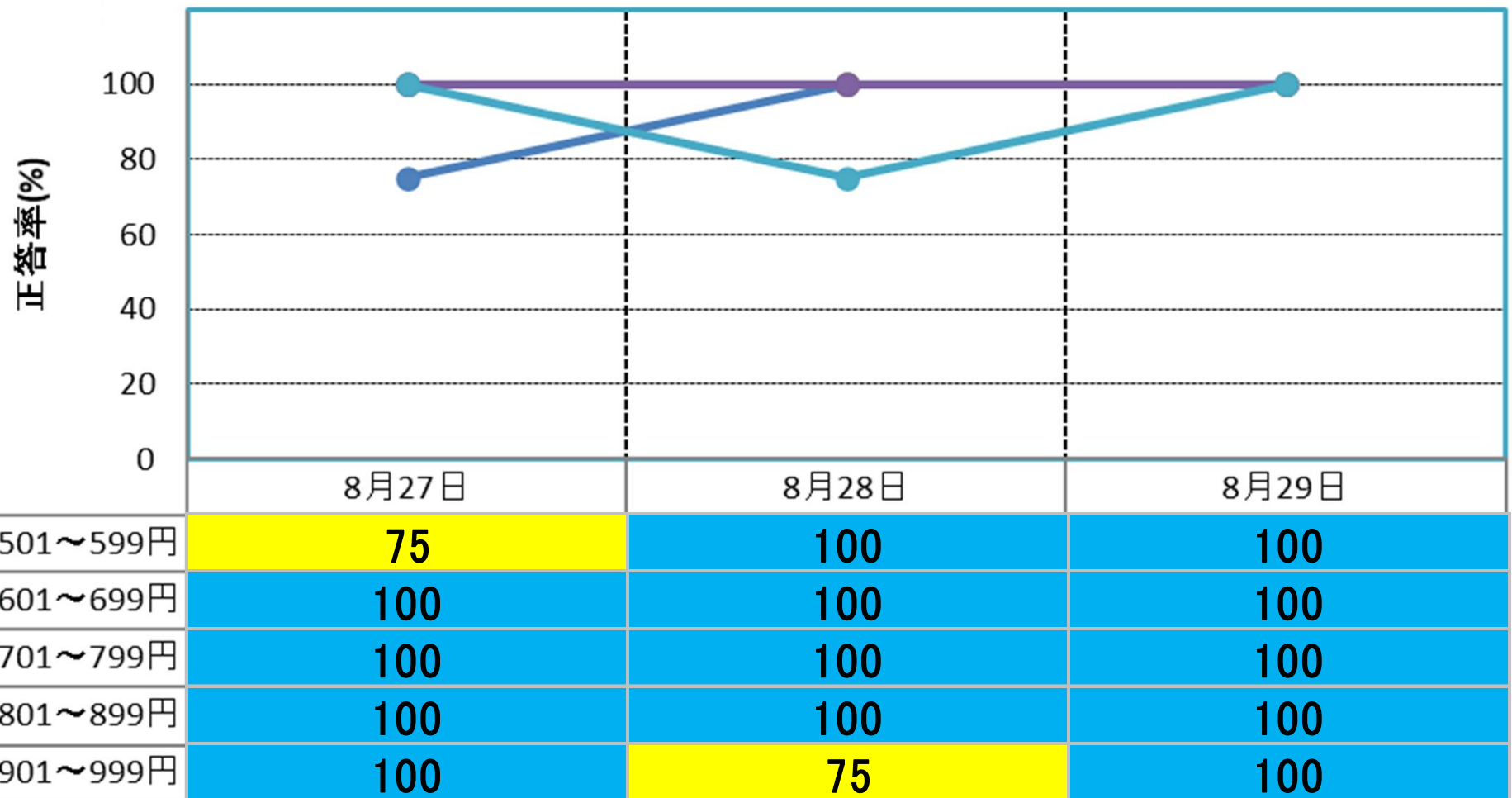
提示金額		支払った金額	評価
532円	➡	700円	×
751円	➡	800円	○
923円	➡	900円	×

財布の中身



②ベースライン

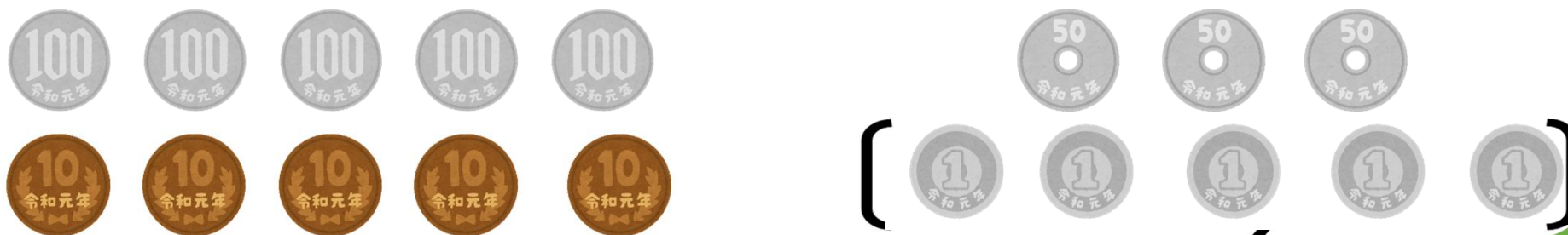
金額帯ごとの正答率の推移 (100円×10枚)



③ 10円単位の直近上位の額またはちょうどの額を出すことができる。(提示金額500円まで)

提示金額		支払った金額	評価
352円	➡	360円	○
19円	➡	50円	×
385円	➡	400円	×

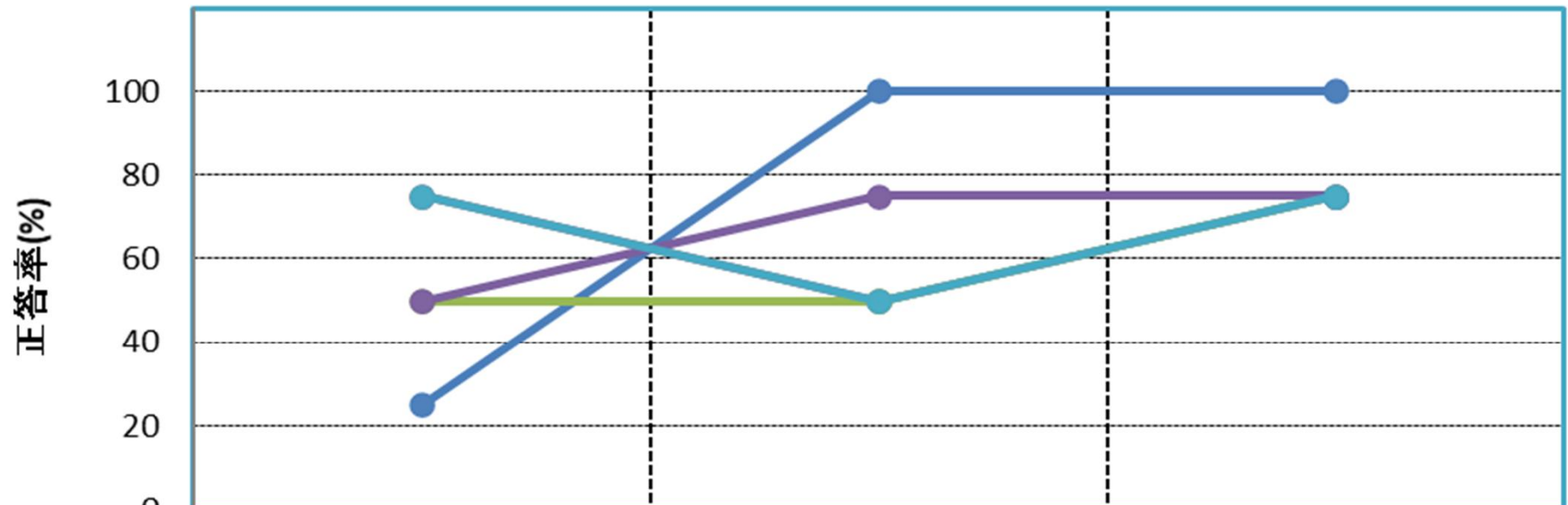
財布の中身



8月28日、29日のみ
1円硬貨も使用

③ベースライン

金額帯ごとの正答率の推移
(100円×5枚、50円×3枚、10円×5枚、〔1円×5枚〕)



金額帯	8月27日	8月28日	8月29日
1~99円	25	100	100
101~199円	75	50	75
201~299円	50	50	75
301~399円	50	75	75
401~499円	75	50	75

④ 10円単位の直近上位の額を出すことができる。(提示金額1000円まで)

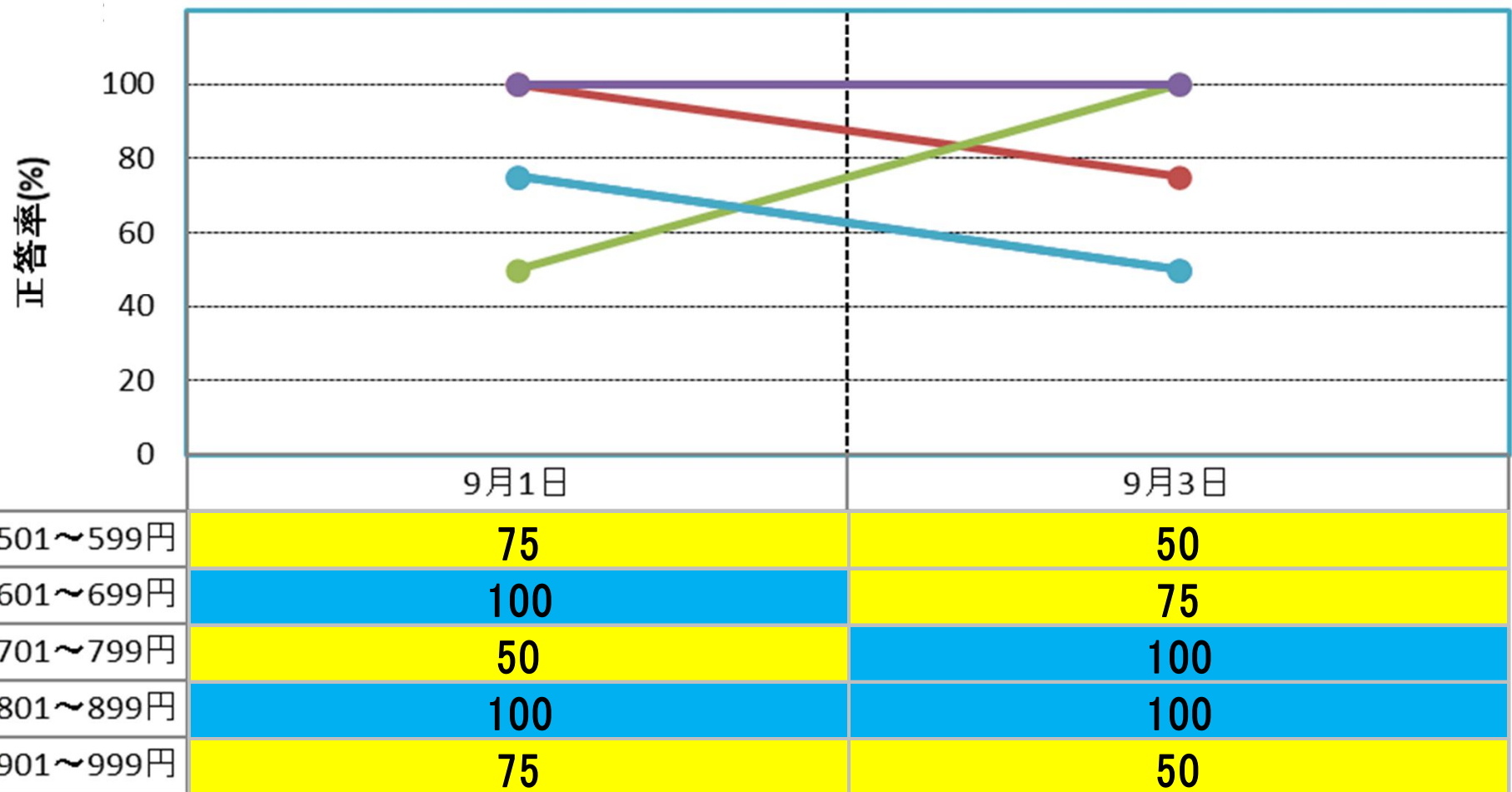
提示金額		支払った金額	評価
666円	➡	670円	○
728円	➡	780円	×
979円	➡	1000円	×

財布の中身



④ベースライン

金額帯ごとの正答率の推移
(100円×10枚、50円×3枚、10円×5枚)



助言いただきたい内容

- ①ベースラインの記録の手続きについて、適切かどうかご助言いただきたい。
- ②728円の提示の場合、正解の支払い方は、「728円」、「730円」、「750円」、「800円」、「1000円」だが、どのように指導計画を組み立て、レベルアップしていけば良いのか？

指導の組み立て
イメージ

ステップ3

財布の中身(多数の等価有り)
100円×10
50円×1
500円×1 ※10円なし
正解は2つ→750円、800円

ステップ2

財布の中身(等価有り)
10円×5
100円×5
500円×1
正解は2つ→730円、800円

ステップ1

財布の中身(等価なし)
100円×10のみ
*10円、50円、500円なし
正解は1つ→800円

指導目標

728円

直近上位を支払う
場合

社会性

レジが混んでいる時
早く出せる直近上位



800円、1000円

レジが空いている時
1円玉が多い時




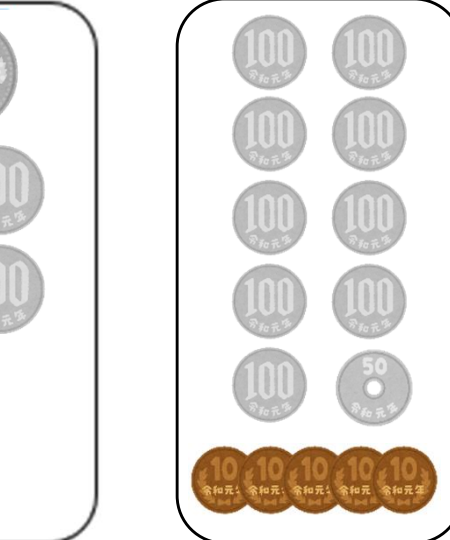
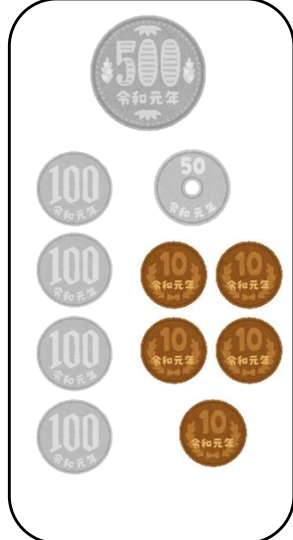

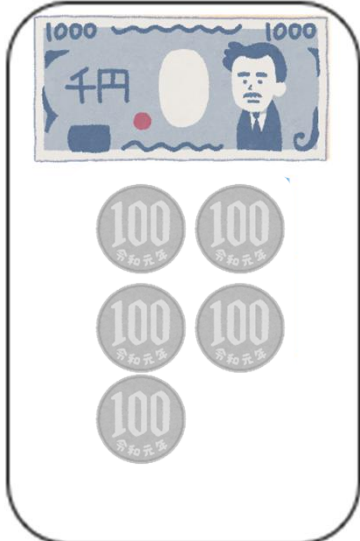
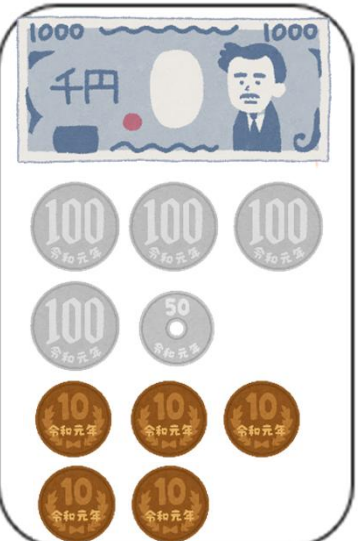
728円、730円

相談②

指導計画の組み立て、レベルアップについて

相談②

財布の中のお金のステップについて

財布の中身のステップ	ステップ1	ステップ2	ステップ3
<p>500円～999円 の支払いが 標的行動の生徒の財 布の中身</p>			
<p>1000円～1500円 の支払いが 標的行動の生徒の財 布の中身</p>			

助言内容

もっとやさしい指導を！

- ①硬貨のマッチング
- ②組み合わせのマッチング



「6円ちょうど」



「110円ちょうど」



助言内容

③ぴったり出せる→ぴったりがない



6円→有 7円→有 8円→有

9円→**無い**→10円玉出そう!

やさしいやりかた=エラーレス直近上位!

助言を受けての見直し

学習の進め方について見直しを行った。

【学習の進め方】

- 1 机上で硬貨を並べて学習
- 2 1～100円から実施
- 3 ステップ①～③の指導を繰り返す
- 4 指導において直近上位の問い10問全問正解が3回できたら直近上位の確認テストを実施
- 5 テストに全問正解できたら100円ずつ金額を上げて指導を進める

助言を受けての指導方法の見直し

硬貨のマッチング



硬貨の組み合わせのマッチング



直近上位に向けてエラーレスで指導



直近上位の指導

金額を上げる

助言を受けての硬貨提示の見直し

前半5問は並べて実施

金額を確認
しやすい状態



後半5問はバラバラで実施

レベルUP!

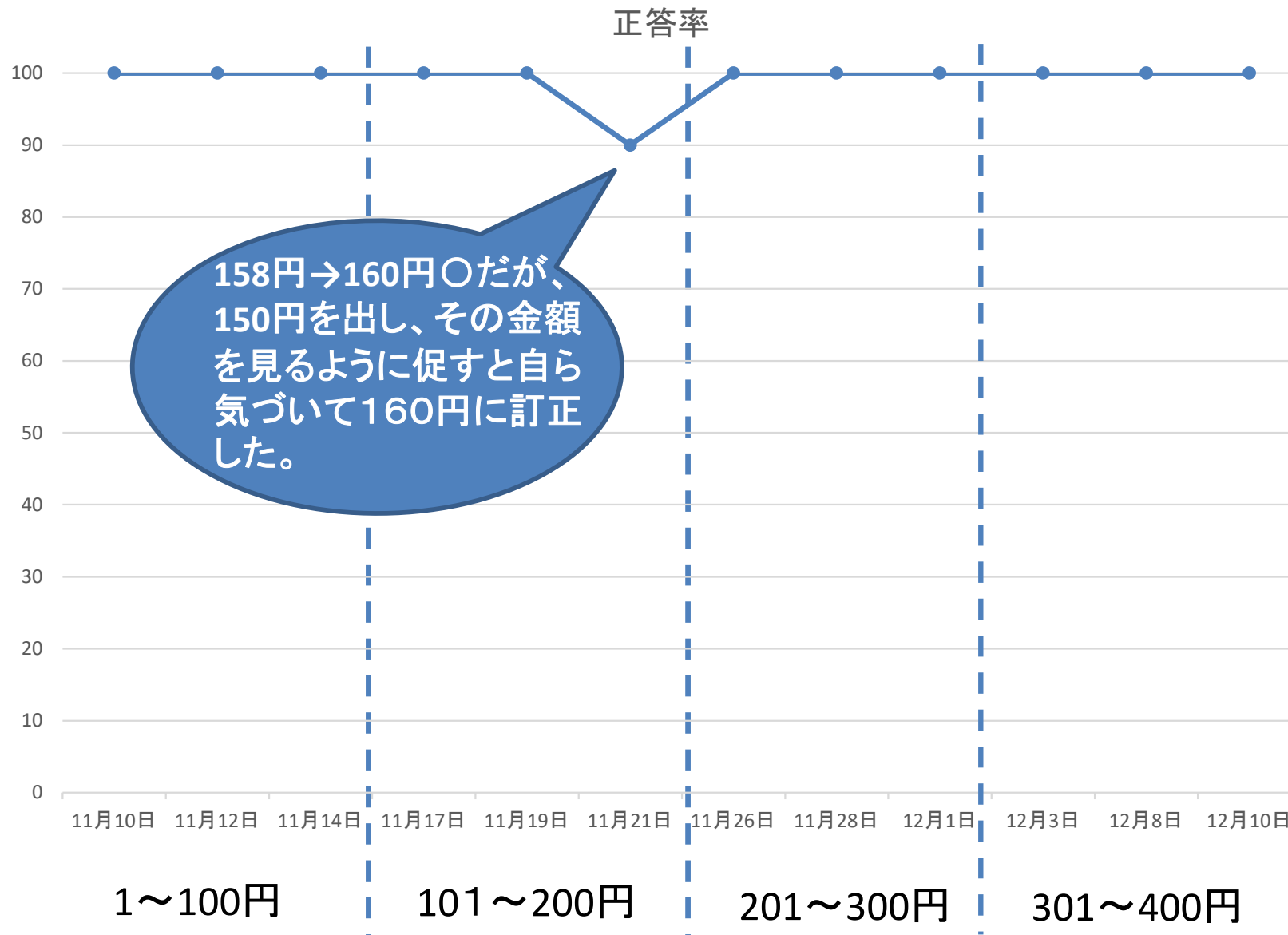


慣れてきた201～
300円から実施

記録方法と記録

- ・学習状況をタブレット端末で撮影。
- ・教員の発問に対して、どれだけ正答できているかを、指導実施後に確認した。

指導後の結果



確認テストの結果

1～100円		101～200円		201～300円		301～400円	
問題	出した金額	問題	出した金額	問題	出した金額	問題	出した金額
9円	10円	190円	200円	240円	250円	334円	335円
29円	30円	184円	185円	204円	205円	309円	310円
40円	50円	179円	180円	279円	280円	324円	325円
38円	50円	139円	150円	234円	235円	339円	350円
90円	100円	195円	200円	243円	250円	379円	380円
8円	10円	114円	115年	274円	275円	395円	400円
13円	15円	184円	185円	293円	300円	384円	385円
18円	20円	189円	200円	245円	250円	379円	380円
88円	100円	124円	125円	209円	210円	308円	310円
95円	100円	119円	120円	259円	260円	398円	400円
正答率		100%		100%		100%	

指導の成果

- ほぼエラーレスで指導を行うことができた。
- 確認テストの結果は金額を上げても100%であった。
- エラーレス直近上位を行ってから自信を持って取り組んでいるように見えた。



2回目コンサルテーションでの 具体的な相談内容

- ・トレーニングを繰り返し、1500円程度まで金額を上げていくことを目指したいが、現在の指導手続きで進めてよいか。

助言内容 2回目

12月まで



「506円、507円、508円

509円はないから510円なんですよ！」

やろうとしていることがバレバレ

チャレンジするフェーズに突入！
エラーを怖がらないで！

・急にフェイントをかけてみる



・直近上位のあと、お釣りを渡す



・財布からお金を払うようにする



より生活に直結した
取り組み

助言を受けての見直し

学習の進め方について見直しを行った。

【学習の進め方】

ステップ④フェイントをかける 500円台から実施

「506円、507円、508円、369円!」

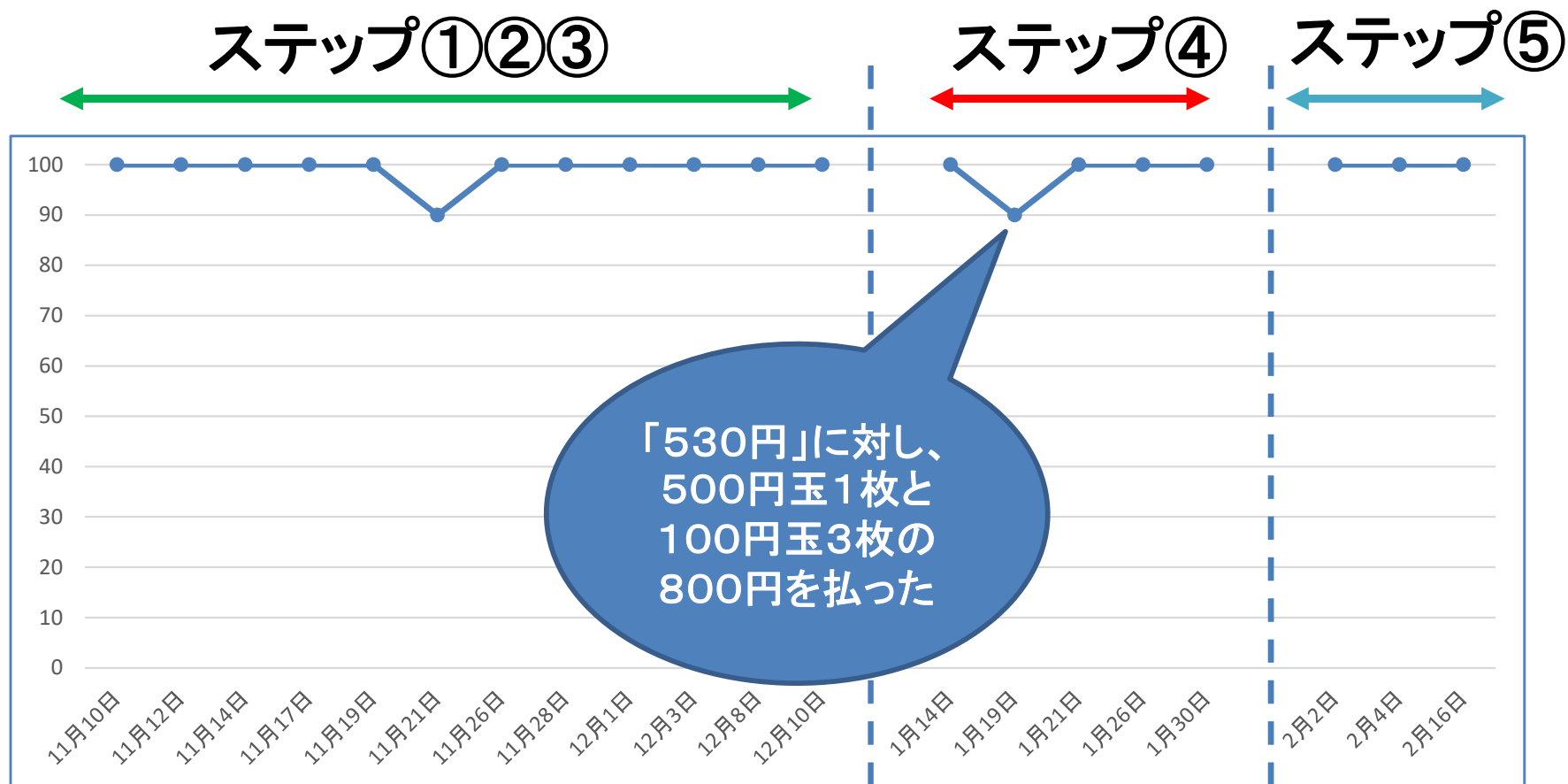
ステップ⑤お釣りを渡す 600円台から実施

手持ちの金額が変わっても払えるか!?

ステップ⑥財布からお金を出す

机上から財布に変わっても払えるか!?

指導後の結果




ステップ①硬貨のマッチング
ステップ②組み合わせのマッチング
ステップ③「ぴったり出せる」から「ぴったりがない」状況

ステップ④
フェイント


ステップ⑤
お釣り

指導の成果

- ・「フェイントをかける」、「お釣りを渡す」のチャレンジをしても、ほぼエラーレスで指導を行うことができた。
- ・コンビニでぴったりの金額が財布にあったものの、直近上位の金額をスムーズに支払うことができた。

1回目「338円」→350円 

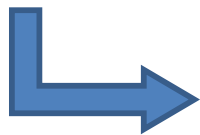


2回目「347円」→350円 



ここが成功のポイント

- エラーレスで指導を組み立てていくことの大切さ
生徒がどれくらいのことができるかを実態把握。
→確実にできることを軸にエラーレスの指導を組み立てていく。
⇒ やさしいやりかた = エラーレス直近上位 生徒の自信UP!
- 指導をステップアップする際のタイミング
エラーレスは大前提。しかし、ステップアップすることも必要！！
→エラーを怖がらず、できると思ったらチャレンジしていく！！
(フェイント、おつりの導入、財布での提示等)
→エラーが続けば、前のステップに戻る。
エラーを続けないことが大切！！



金銭の指導だけではなく、
どのような指導にも通じる考え方！！